

にっこり ひろば



防災推進委員会 発足



(自治会長 大月)

ご参加頂けた方もいらつしやるかと思
います。平成20年に結成された「南街・
桜が丘地域防災協議会」、南街・桜が丘地
域の21団体で組織され、合同の防災訓練
が実施されています。

当町内での防災訓練の意識は低く感じ
ます。防災組織の必要性を感じながら
も、参加者は少ないです。これからは、試
行錯誤しながら自分達に出来る防災とは
何かを考え、楽しくと言っては語弊があ
るかもしれませんが、「皆で参加」くらい
な意気込みでやろうではありませんか。
今年度中に発足と企画し、2月10日
(土)初会合でした。

「栄二丁目自治会防災推進委員会」

次回
3月17日(土)
・組織図
・企画案
・予算案
づくり

非常時持ち出し用品の 備えは万全ですか？



南海トラフ確率が、30年以内に
「70%が⇒70~80%に上昇した」とのことは、ご存知のこと
と思われるが、さて(?)これを現実の危機感としてとらえている
人は何人くらいでしょうか？

M8~9級以上の巨大地震が30年以内に…この30年以内
に起きる確率とは、30年後と言う訳ではない。明日起きうるこ
ともある。その確率がさらに引きあがった訳ですから他人事
のように考えないで、いつわが身に!!と 防災意識を高めて欲しいと思
います。

災害はいつ起こるか、どこで起こるか、だれも予測できないで
しょう。みんなで顔を突き合わせて考えても、答えの出るこ
とでは無いですが、考え無いよりも良い、一人で考えるよりも大勢で
考えたほうが良い、色々なことをシュミレーションするだけでも、
いざという時には役立つと信じています。たとえば…

- ★家具類の転倒・落下・移動防止はOKですか？
- ★日頃の準備はできていますか？
- ★いざという時にどうする・考えていますか？
- ★何を用意しておけばいいの？
- ★災害にはどんなものがあるの？
- ★自分の身を守るにはどうすればいいの？

家族構成の把握



避難と安否確認の方法



防災訓練への参加と体験

この日の参加メンバーは9名でしたが、現
時点、男性11名、女性5名でスタートです。
今後発生するであろうと予測する巨大地
震に備えて、「自助、共助」の精神を高める為
の御意見を頂き、イラストの様な防災訓練や
意識づくりを推進していきます。
公助を必要としますが、すぐには稼働でき
ないと思われまふ。

“ふみきりの”話を読んで昔話に
花が咲きましたとのこと お便り頂きました。

色々なこえ

自治会広報誌として昨年8月にスタート、当初はの
んびり 地域内のお話を拾って…2~3か月に1回程度
の発行かな(*^v^*)の気持ちでした。いざ始めてみ
ると、お伝えしたいことが結構あることに気づきました。

お陰様でと言ったら変ですが、「楽しみに読ませて貰っ
ています」「ありがとう」「そう昔は、こころ辺りは畑で何
もなかったよね」「あの踏切のおばさん・実家の母で
す」「なつかしい田舎の様子がわかります」「いいです
ね・楽しいです」「カラーコピーかと思ったら 色塗りの
のね！すごい〜」等のお声を頂き嬉しい限りです。

「今月…何？」と、お手元に届くことを待つて下さる方が
いる、読んで貰えていると感じましたm(_)_m
数人で話題提供するには限りがあります。是非ぜひ
紙面に参加してください、それが頑張れる根源です。

「栄二丁目自治会に目を向けて住民の方々が繋がっ
ていくこと」を願って共通の話題探しに(*^v^*)頑張り
ます。

小さな地域です、小さなことで十分ですから声を発して
「住みやすい街づくり」を合言葉に、
ご協力ください。

パンピ・ロン・マロン・マル子・たこぶね・ラグニャン

(編集責任 大月恵美子)

思い出の青梅橋

川遊び

戦争の最中に南街で生まれ育って
74年。昭和30年代(子どもの頃)は、
付近の空き地、畑、雑木林、川など
を遊び場に楽しく過ごした事を想
い、旧青梅街道の青梅橋(現在の東大
和市駅)の西側、西武線玉川上水か
ら東側の小川地区の範囲で記憶をも
とに書いてみました。

当時、旧青梅街道(6m程の道幅)の
下に川がありました。
江戸時代、玉川兄弟により多摩川
の拝島から武蔵境の浄水間に用水路
(本流)が造られ、現玉川上水で2本
の支流が(1本(A)は小川橋で、もう
1本(B)は青梅橋の下を潜り西武
線の小さな鉄橋の下を通りそれぞれ
小川地区へと本流に並行して分岐さ
れる。
支流には名は無く、付近の農家が
野菜や鍋洗いなど、生活に活用して
いた記憶があります。



青梅橋

(現、東大和市駅高架下辺り)



箱メガネで川底を…

(B)の青梅街道下のトンネルは、
陽はさす薄暗く水深0.5m位で左
右に赤土の土手、そこに手荷物を
置き清流の中にいたタニシ、シジ
ミ、ザリガニ等が木枠にガラスをは
め込んだ箱メガネで取れました。
(B)への降口は葉草園の脇にあり、
銀杏の大木と小さなお稲荷さんを
目印に降りると、そこは洗い場です
た。反対の壁面には熊笹に覆われ
た防空壕に似た洞穴があり6畳ほ
どの広さがありました(付近の避
難用か?)。

(B)の上流(現小平市中島公園)に
は、子ども達が通称「どばし」と呼ん
だ場所があった。「どばし」は近くの
雑木林から木や小枝を集め積み上
げ、堰を作り、水深2m位、プールのよ
うにして兩岸から飛び込みを可能に
して、先輩達と泳いだ。冷えた身体
は、土手に這い上がり日光浴をする
のが夏場の楽しみでした。
堰は下流の農家にたびたび破壊さ
れる。後で知りましたが、水量減で用
水の役目が果たせず困った為と。
上流側の分岐点には 現在、「清流の
復活」という石碑あります。立ち入り
禁止の柵があったが外から、うぐい
や、はやなどを釣りました。東大和に
川は無くても、この用水路(B)に感
謝、感謝。
当時、青梅橋は立川、小平、青梅
方面への分岐点で、中央にロータリー
らしきものが、立川行きのバス停が
あり、電車が高架になる前には、踏切
の小平寄りに駐在所があったことを
付け加えます。

「神谷氏」

